

平成26年度病害虫発生予報第12号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
麦 類	うどんこ病	並	並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや少 少 少 並 やや少 並 並	やや少 少 少 並 やや少 並 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	並 やや少 やや多	並 やや少 やや多
いちご (本圃)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類(注意報第9号継続)	並 並 やや少 多	並 並 やや少 多
たまねぎ	白色疫病 べと病 ネギアザミウマ	並 並 並	並 やや多 並
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並 少 やや多	並 少 やや多
果樹共通	クワゴマダラヒトリ	少	少
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

麦 類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 3月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

きゅうり

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、一部で多発圃場がみられたものの、発病葉率は6.2%(5.1%)、発生圃場率は16.7%(43.4%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.2%(9.3%)、発生圃場率は33.3%(67.4%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率5.2%、発生圃場率45.8%)。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率3.1%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率7.4%)。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.2%(1.4%)、発生圃場率は33.3%(24.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は本虫の増殖源となるので除去し、環境衛生に努める。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

ウ 栽培終了後に施設の開口部を7～10日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は2.5%(2.9%)、発生圃場率は33.3%(32.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は本虫の増殖源となるので除去し、環境衛生に努める。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

ウ 栽培終了後に施設の開口部を7~10日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%(0.5%)、発生圃場率は33.3%(24.0%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.0%(0.3%)、発病葉率は0.4%(過去2カ年平均1.6%)、発生圃場率は16.7%(22.9%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.4%(過去4カ年平均0.3%)、発生圃場率は33.3%(同14.6%)であった。

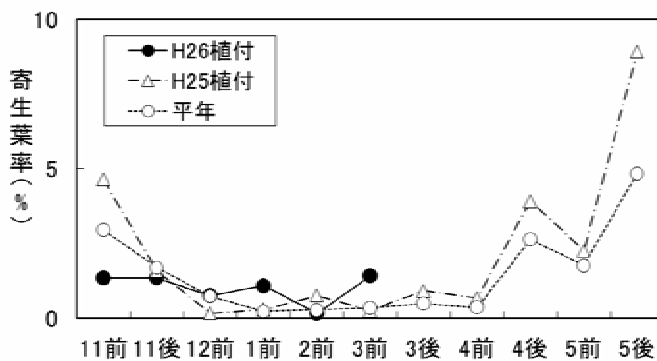


図 トマトのコナジラミ類 寄生葉率の推移

注) 平年はH22~25年の平均値

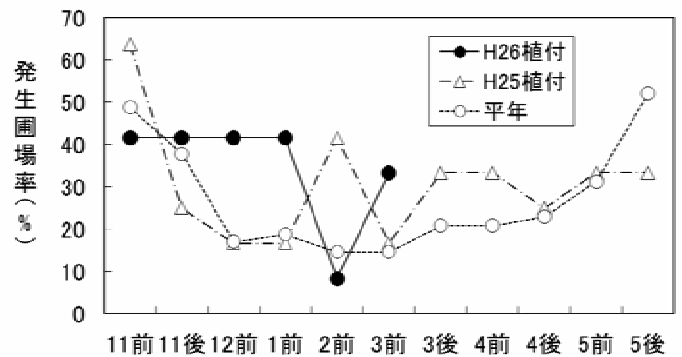


図 トマトのコナジラミ類 発生圃場率の推移

注) 平年はH22~25年の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内の雑草は、本虫の生息・増殖源となるので除去する。
- イ トマト黄化葉巻病の二次伝染を防ぐため、発生初期に防除し本虫の密度をできるだけ低くする。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.1%(0.0%)、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は7.4%(1.9%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.2%)、発生圃場率は11.1%(19.9%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は3.7%(7.0%)であった。

4. ハダニ類

平成27年2月2日付け病害虫発生予察注意報第9号を継続。なお、その後の発生状況は以下のとおりであり、今後も多発生が予想されるので管理に留意する。

(1) 発生状況等

ア 3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は10.1%(4.6%)、発生圃場率は63.0%(36.6%)であった(図1、2)。

イ 病害虫防除員の報告によると並~やや多の発生である。

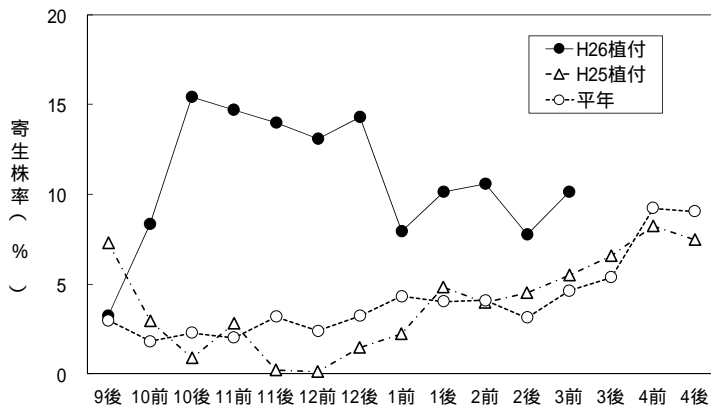


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
平年:H16~H25の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

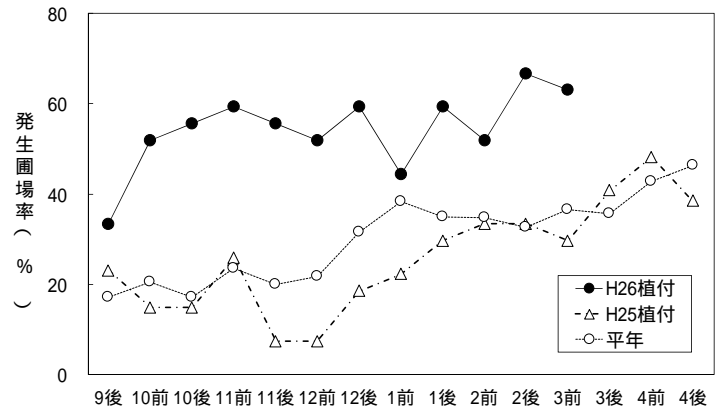


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
平年:H16~H25の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

(3) 防除対策

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬剤散布は古葉の整理を行った後、葉液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- イ 既に多発している圃場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回の連続散布を行う。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。なお、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤を活用する場合、これらの薬剤は卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。
- エ 天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を使用している圃場では、ハダニ類の発生状況に応じて天敵に影響の少ない薬剤を使用する。
- オ 薬剤散布に当たってはラベルを確認し、使用回数等、使用基準を遵守する。

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（15筆）の結果、発病株率は0.1%（0.1%）、発生圃場率は6.7%（5.8%）であった。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査（15筆）の結果、発病株率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は13.3%（5.8%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進行すると防除困難となるので、圃場の見回りをこまめに行い、早期発見・早期防除に努める。

イ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

ウ 罹病葉や枯死葉は伝染源となるので適切に処分する。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（15筆）の結果、寄生株率は29.3%（20.2%）、発生圃場率は53.3%（69.2%）であった。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率(越冬病斑)は0.0%(0.0%)、発生圃場率は2.8%(1.3%)であった。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率(越冬病斑)は0.7%(0.5%)、発生圃場率は5.6%(26.1%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は4.6%(1.8%)、発生圃場率は38.9%(28.2%)であった。

果樹共通

1. クワゴマダラヒトリ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

平成26年9月および10月に実施した産卵樹上(アカメガシワ、カラスザンショウ)における幼虫巢の発生調査の結果、県内12地区で発生を認めなかった(平成17~25年の発生程度の平均値:0.6)。

※以下の基準により発生程度を達観で調査した。

調査基準:極多(5)、多(4)、中(3)、少(2)、極少(1)、無(0)

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は7.0%(1.0%)、発生圃場率は50.0%(29.0%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

【参考】

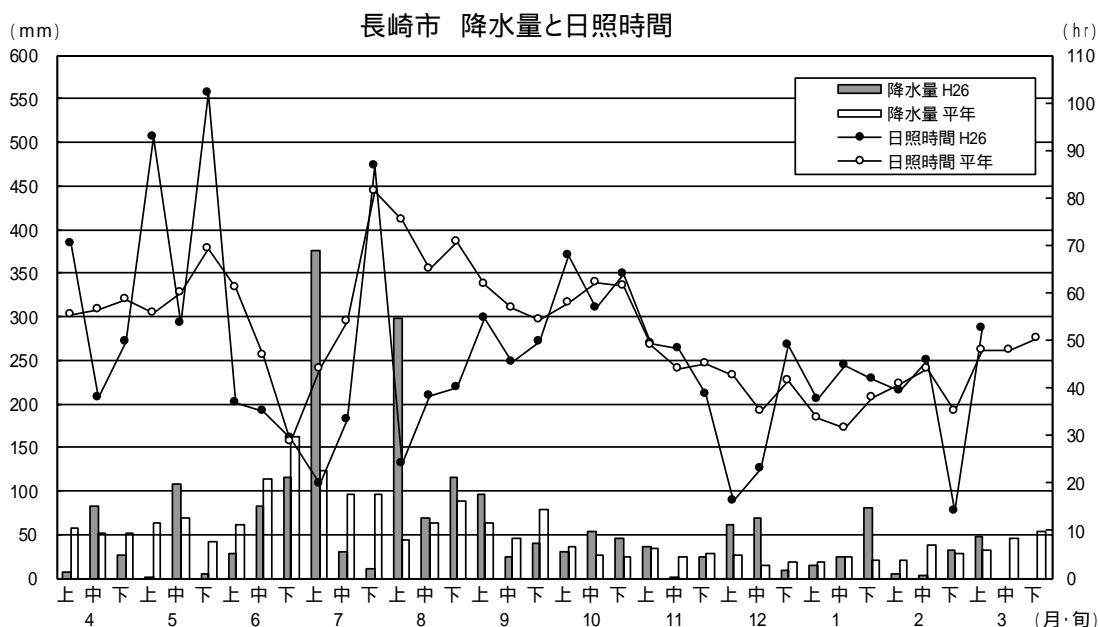
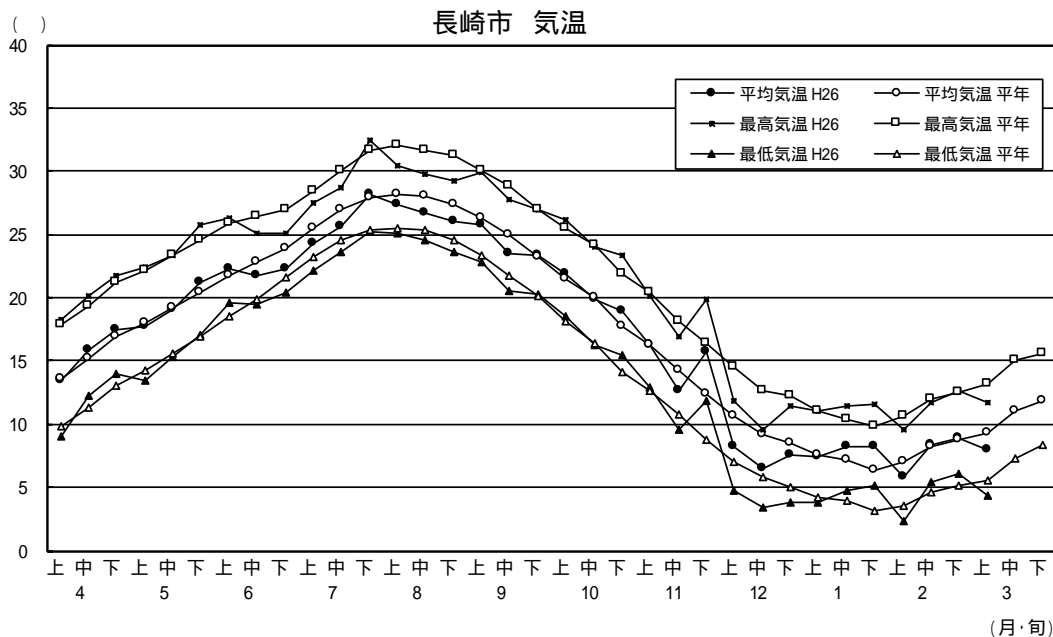
気象 (平成27年3月12日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	30	40
降水量	30	30	40
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成26年度の気象経過 (長崎地方气象台)



長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027